

民話の深層心理からみた地域風土について

岐阜大学 学生員 ○岸 直樹
岐阜大学 正 員 秋山 孝正

1. はじめに

従来、土木計画は経済活動や所得水準の向上を主要な目的とした社会基盤施設の整備を中心として議論されてきた。このような物質的・工学的な土木計画論に加えて、近年では風土特性を積極的に考慮した地域計画論に関する研究が進んでいる。

本研究においても、これまで研究が進んでいる地域計画における個性化を意図した風土分析手法を検討する¹⁾。具体的には、岐阜県地域を対象とし風土的特徴を明らかにし、地域風土とこれらに基づく計画理念の形成に関する考察を行う。このとき、特に住民の深層的な心像を求めるため、地域の地理的文化的特性、民話（民間伝承）を用いるとともに、各種メディアにおける岐阜県の地域に関するイメージ調査を実行するものとした。

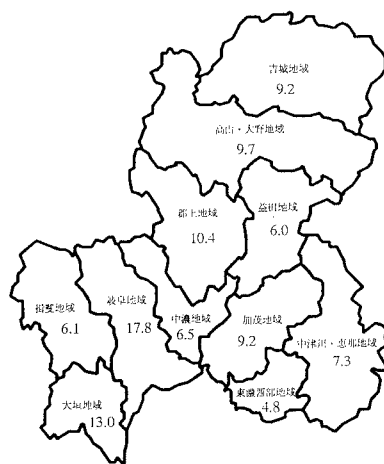


図-1 岐阜県内の指定文化財の分布（割合：％）

2. 地域風土に関する基礎分析

2-1 統計的資料による分析

本研究では風土的特徴を多面的に明らかにするため、風土特性に関する統計資料、民話、観光資料などにより分析する。これらの資料から得られる風土各側面を最終的に体系的に表現することが本研究の目的である。まず地域に対して比較的容易に得られる統計資料から得られる地域情報を整理する。風土特性を考慮する場合に、既存データを有効に利用するため行政的分類を基本として各地域を規定した。この地域区分を図-1に示す。結果的に岐阜県下を11地域に分類している。この地域区分においては、主に岐阜県広域市町村圏分類を参考としている。

統計的に収集可能なデータとして、人口分布・産業活動などに加えて地域別文化的統計（祭り・寺社・文化財数）の収集を行った。さきの図-1に文化財数を地域ごとの割合として示している。この資料は「平成3年度岐阜県統計書」によるものである²⁾。これらは、表層的ではあるが現時点での各地域の文

化的側面からみた相違を示すものである。

2-2 民話を用いた分析

本研究では、地域の深層心理的な意識を求めるための各地域の「民話」を分析する。風土工学において民話分析を行った例はいつかのものが知られる。

ここでも既存研究と同様の視点から、民間の伝承として、多くの地域に内在する深層心理的情報が民話の中に蓄積されていると考えている。すなわち、民話は、発生的に地域風土と深く関わり合いを持ち、地域住民の願い・憧れ・祈りなどが内包されたものといえる。具体的な分析手順はつぎのようである。

- (1)各地域で代表的とされる民話を抽出する。
- (2)民話の主題・登場人物・固有名詞などを抜き出し、統計的分析を行う。
- (3)代表的な民話のストーリー展開、登場人物の相互関係等から、民話に潜む深層心理を解明し、地域に対応する精神風土の特徴を整理する。

3. 民話分析による地域性の表現

本章では、これまでに得られた各側面の分析結果から、民話分析における主要な検討結果を紹介する。

本研究では、わが国の地域の民話に関する既存書籍から岐阜の代表的民話を抽出した。具体的には「美濃の民話」・「美濃の民話2」・「飛騨の民話」と題する3冊の書籍に収録された計176話を用いた^{3)・4)}。これらの民話は一般的な分類(伝説・笑話・動物昔話・本格昔話など;参考文献5)より)に対応させることができ、その意味で形式上も代表的な民話群が形成されているものと考えられる。

図-2に各地域ごとの民話の分布を示している。

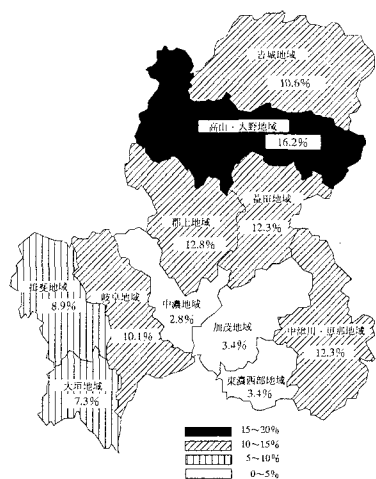


図-2 岐阜県下の民話の分布

この分布には、岐阜県を大別する美濃・飛騨の2地域が明確に現れており、特に高山・大野地域においては民話の形式をとった歴史的・文化的風土特性を把握することができる。

また民話に関する「場面設定」・「登場人物」あるいは同様の物語におけるストーリー展開の相違から各地域の相違を示すことができる。この統計的な相違に関するいくつかの分析結果が得られたが、ここでは省略する。

つぎに、民話に内包される「地域コンプレックス」を具体的に抽出することを考えた。この場合分析に適する物語の形態として「発端」・「経過」・「結末」といった三段構造に分けることのできるストー

リー展開豊かな本格昔話(狭義の昔話)を取り上げた。民話・童話に関する深層心理的解釈に関しては、すでに多数の研究が見られる^{6)・9)}。

ここでは、これら既存研究の方法を参照し、各地域の精神風土の特徴を自己実現・排他的意識・異世界への畏怖などのいわゆる心理学的キーワードで表現しようとするものである。

4. おわりに

本研究では、これまでに述べた地域風土に関する2側面の分析結果に加えて、現在の地域イメージを明確にするため意識調査を実施している。

この調査では、現在の観光資料や、メディア情報から「文章」や「写真」等で表現される各地域のイメージを被験者の刺激に対する反応と考えて分析を行うものである。具体的には、複数の形容詞対(女性的・男性的、閉鎖的・開放的などの10形容詞対を設定)を用いたSD尺度による意識表現を基本として分析を行った。これらの具体的な調査結果についての整理は現在検討中である。

以上の分析がそれぞれ遂行されると、最終的に3側面からの地域風土特性の表現が可能となる。さらに、これらの心情的要素を基に体系的にまとめ、地域ごとの差異の程度として表現する。この際の現実の地域計画における検討資料としての位置づけと、整理された風土特性の表現方法が本研究における今後の重要な検討課題である。

【参考文献】

- 1) 佐佐木綱：民話と町づくり、高速道路と自動車、第27巻第5号，pp.16-17，1984
- 2) 岐阜県統計協会：平成3年岐阜県統計書，1991
- 3) 赤座憲久編：美濃の民話 日本の民話51，未来社，1973.
- 4) 江馬三枝子編：飛騨の民話 日本の民話15，未来社，1958.
- 5) 関敬吾：民話，岩波書店
- 6) 河合隼雄：昔話の深層—ユング心理学とグリム童話，講談社
- 7) 河合隼雄：昔話と日本人の心，岩波書店，1982
- 8) 森省二・氏原寛：名作童話の深層，創元社，1989
- 9) 森省二：アンデルセン童話の深層，創元社，1988